

# 台湾キドクガによる皮ふ炎

## 台湾キドクガってどんな生き物？

台湾キドクガは触ると皮ふ炎をおこすガ(蛾)の仲間です。特に幼虫は、例年4月～6月にかけてモモタマナ(別名:コバテイシ、方言名:クワディーサー)(写真1)やギンネムなどの樹木の周囲で多くみられます。幼虫の大きさは2cm程度で、背中オレンジ色の線と黒いコブが特徴です(写真2)。幼虫の体表には毒針毛(どくしんもう)と呼ばれる0.1mmほどの目に見えない毛が無数にあります(写真2右上)。また、毒針毛は幼虫だけでなく、卵や幼虫の脱皮がら、繭(まゆ)、成虫(ガ)にもついています。幼虫に触れたり、風で飛んだ毒針毛に触れることで、かゆみや紅はん(赤いブツブツ)などの症状が現れます(写真3)。2004年4月には、県内の海岸で修学旅行生が集団で皮ふ炎を発症する事例が発生しました。この事例は、シュノーケル体験中に海岸に放置していた衣類や荷物に風で運ばれてきた台湾キドクガの毒針毛が付着したために発生したと考えられています。

## 触れてしまったときはどうすればいいの？

もし触れてしまったら、触れた場所に粘着テープを貼ったり剥がしたりして毒針毛を取り除き、石けんでよく洗い流してください。搔いてしまうと症状が広がる恐れがあるので絶対にしないでください。症状には個人差があり、病院へ行く人もいれば、全く症状が出ない人もいます。かゆみや紅はんがひどい場合は病院の皮膚科に行くことをお勧めします。

## 被害を防ぐにはどうすればいいの？

まず何より台湾キドクガが発生している樹木に近づかないことです。毒針毛は風で飛ぶため、樹木の周辺にも飛散している可能性があります。長そでや長ズボンを着用して、できるだけ肌を露出しないようにするのも効果的です。もし駆除を行う場合は、毒針毛が周囲に飛ばないように幼虫や卵がついた葉や枝にビニール袋をかぶせて枝ごと

と切り落とし、袋ごと処分する方法がよいでしょう。駆除の際には毒針毛が付着している場合がありますので、駆除後は衣服をよく洗うようにしましょう。大量に発生している場合や、高所に発生している場合は、駆除業者に依頼することをお勧めします。  
【衛生科学班】



写真1. モモタマナ (右上: ガに食べられた跡)

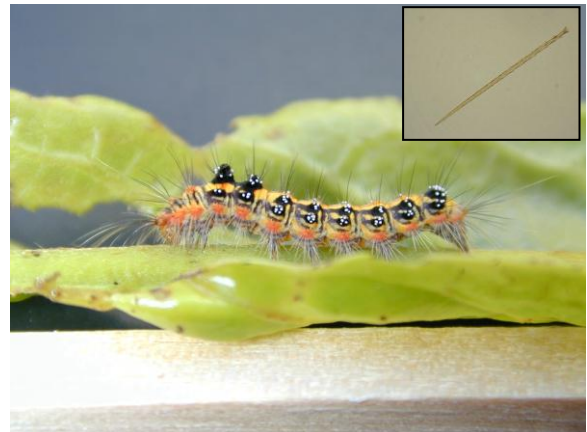


写真2. 台湾キドクガの幼虫 (右上: 毒針毛)



写真3. 台湾キドクガによる皮フ炎